

相談重ね 子と信頼構築

田里友邦



たんぽぽの
たね

「子どもの力になりたい」という「大人の欲求」を満たすためではなく、「子どものことを第一に考える」団体の必要性を感じ、2018年6月「子ども電話童神」を設立しました。その頃に新聞などで目にした若者の声が、思いをより強くしました。「教師から『いじめられるのはあなたが病気だから』と言われた」「スクールカウンセラーに相談したら学校に漏れ、先生から尋問を受けた」「チャイルドラインは孤独を感じやすい深夜には電話を受けてくれず、24時間をうたういのちの電話は何度電話してもつながらず、見捨てられたように感じた」などです。

当初は1本も電話がない日もありましたが、こゝ最近はやく電話を受けるようになりました。初回からいじめなどの深刻な話をする子はいません。雑談を重ねるうちに「実は…」と悩みを打ち明けてくることがほとんどです。信頼できる相手かを慎重に見極めた上で本心を語ってくれるのだと思います。信頼を得るのは決して簡単ではありませんが、自分の価値観や社会の常識で悩みの軽重をはかることなく、情報提供や解決を急ぎ過ぎないことが大切です。

相手をコントロールしようとせず、ありのままの気持ちを受け止める。真剣だけれど深刻になり過ぎず、相手には乗り越える力があると信じる。そういう積み重ねからこそ、信頼が生まれます。

中には一言「ばか」「死ぬ」と言ったり電話を切る子、悩みは深刻でも声が見ている子もいます。大人が自分たちを見捨てずに向き合うかを試しているのです。よう。だからこそ、大人が子どもを信じ続けること。その意識と覚悟でこれからも活動していきます。

(一般社団法人子ども電話童神理事長)